

新潟県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

当たり前を大切に

長岡市立山本中学校

三年 内藤 花音

いつも通りの学校。…になるはずだった約五年前の十月。給食の時間に突如、親からの急ぎの電話が先生によって伝えられた。

「花音さんのおじいちゃんが…急いで帰る準備をして。」

私は給食の片づけもせずランチルームから教室へと向かった。途中、周りの友達も先生に

「花音ちゃんどうしたんですか？」

と聞いたり、呆気に取られている人もいた。私の頭の中は真っ白でパニックになっていた。その後のことは何も覚えていない。

当日、祖父は友達と魚釣りへ行き、車の中で意識が朦朧となった。後に医師から告げられた病名は脳梗塞だった。いつも元気で大きな病気にかかったことがなかった祖父からは想像もできないほど無気力な姿に小学五年生だった私はかなりの衝撃を受けた。弟はまだ年長だった。祖父の入院で私たち家族の環境や生活をも変えた。いつも家族全員で取り囲んでいた食卓の空いた一つの席。いつも学校から帰ると開いていた鍵が閉まっていること。「ただいまー」と言う相手がいないくて、自分で開けた扉の奥は静まり返っていて、とても寂しかった。だが、私にとって“税金”について

考えさせられるきっかけにもなった。

祖父は普段、険しい顔をしているが、自由奔放で好きなことをして、好きな物を食べる、そんな人だった。しかし、入院してからは苦しそうな顔で、病室のベッドからも出ることができず、チューブで栄養を摂っていた。身体にもだんだんと変化が出てきて、左半身は全く動かさず、手足は日に日に細くなっていた。週末に見舞いに行くと、

「のんちゃん、来たか。」

と今にでも消えてしまいそうな声で私の名前を呼び、手を握ってくれた。そして翌年二月、祖父は天国へ旅立った。

この約四ヶ月間、税金が入院費や診療、治療費、おむつ代などをサポートしてくれたと知ってとてもありがたいことだったんだなと感じた。もし、税金で補助してくれる制度がなかったら、入院や治療に莫大なお金がかかって一般的な家庭にとっては手の届かないものになってしまったと思う。だから税金がある国はどれだけ幸せで、どれだけありがたいことなのか分かる。

日本の小・中学生の教科書には、「これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。」と印字されている。税金は、国民が安心して暮らしたり、時には、夢や希望をもつことができる。それが出来るのも、日本国民全員のおかげだし、支え合っているからこそものだと思う。私たちが今できるのは、教科書を大切に使うこと、学校に通えていることを当たり前だと思わないことだ。私も、このような贅沢な環境で生きられていることに感謝しながら、日々生活していきたい。